

IoT時代のワンポイント講座

地図・地球データ

第14回 オンライン地図の仕組みについて

平野 匡伸

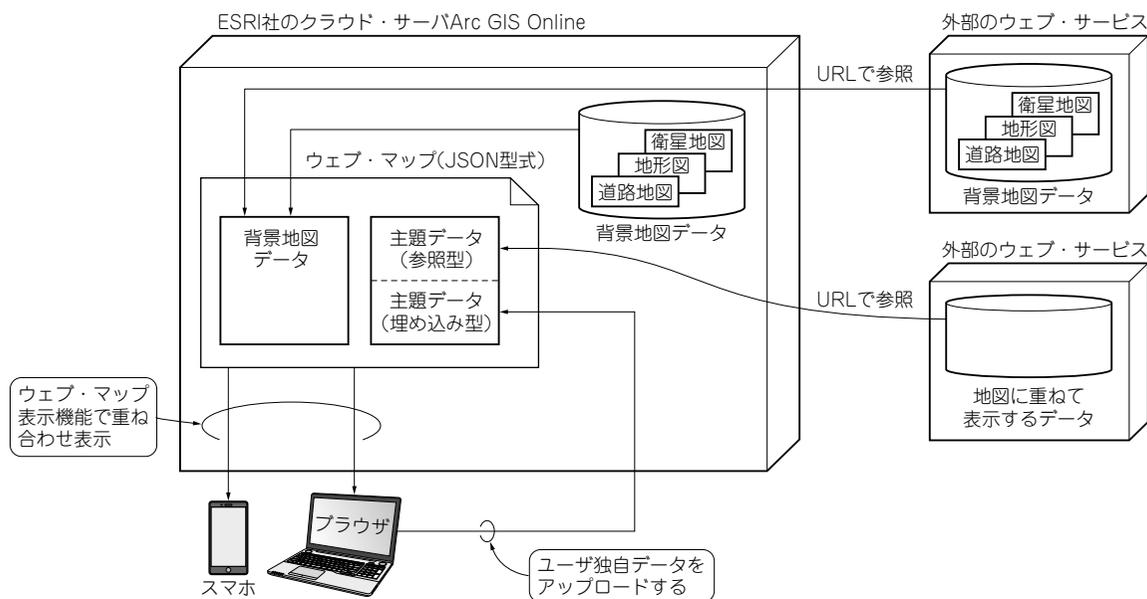


図1 オンライン地図サービスはサーバ上でいろんな地図データを利用できるようにしてある
Arc GIS Onlineの場合

前回(2019年7月号)は、さまざまな物語(ストーリー)を地図で語ることができる「ストーリー・マップ」を紹介しました。このストーリー・マップの中心となるのが「ウェブ・マップ」というオンライン地図の仕組みですが、ウェブ・マップはストーリー・マップのためだけに存在するわけではありません。クラウド上にウェブ・マップを作っておけば、それをいろいろな形で活用することができます。

オンライン地図が便利な時代

オンライン地図には紙地図にない幾つかの良さがあります。例えば地図を傷めずに、マーカの追加や削除が自由に行えます。さらに、独自のマーカだけでなく、個人や団体が作ったオンライン上のデータ(マーカの集まり)を自分の地図上で利用することもできます。

外出先ではスマートフォンなどからオンライン地図

にアクセスできるため、地図を利用するために何かを持ち出す必要もありません。

オンライン地図はベースとなる背景地図上に主題データ(訪問先や移動ルートなど)を追加したデジタル地図を作りクラウド上に登録しておくので、インターネットに接続できる場所であれば、いつでもどこでも利用できます。このオンライン地図が「ウェブ・マップ」です。ここでいうクラウドとは、本連載でも紹介してきた「ArcGIS Online」のことです。地理空間情報(位置データ)をウェブ・マップ化することでさまざまな形で活用する仕組み全体のことを「Web GIS」と呼んでいます。

地図に重ねる情報のフォーマット

ウェブ・マップの基本的な構成は、「背景地図+主題データ(+主題データの可視化設定)」です(図1)。背景地図に関しては、ArcGIS Onlineがウェブ・サー